

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	もりもりの森		
○保護者評価実施期間	2025/2/18		2025/3/1
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2025/2/18		2025/3/1
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	2025/2/18		2025/3/8
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	45	(回答施設数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2025/3/12		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>1. 言語に特化した支援が行えてる。</p> <p>2. 各種標準化されている検査を用いて定期的に利用児童のアセスメントをおこない、個別の支援が行えている。</p> <p>3. 各種検査をおこない、利用児童の強み弱みを客観的数値から導いている。</p> <p>4. 利用児童だけでなく、保護者支援と訪問支援も並行しておこなっている。</p> <p>5. 1歳半からの検査結果に基づく、超早期療育の実施が可能。</p> <p>6. 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、公認心理師、保育士など全職員国家資格を保有している。</p> <p>7. 職員一人一人の質が高い。</p>	<p>1. 子供たちが日々楽しく課題に取り組めるように、支援方法や教材を利用児童の様子や学習結果などを工夫して取り組んでいる。</p> <p>2. 実施者によってやり方が変わらないように、背景や検査結果、支援目的、支援方法を共有している。</p> <p>3. 子供の学習時に常に楽しめる境涯と後続刺激を調整している。</p> <p>4. 利用児童の力に合わせた、支援プログラムをオーダーメイドで立案している。</p> <p>5. 全利用児、毎月支援会を開催し、進捗状況の確認と課題の修正を細かくおこなっている。</p> <p>6. 常にPDCAサイクルを回し、内容等の固定化が起きないようにしている。</p>	<p>1. 研修、学会など、利用児童の利益につながるように、日々法人としても自己研鑽に努める。</p> <p>2. より児童の個性に合わせた支援の質と技術レベルの向上を法人として勤めていく。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>1. 一日を通じて利用児童が来られているので、全職員で集まった時間が1時間単位等の隙間時間になるも、その時間内で建設的な協議が行えるように工夫をおこなっていく。</p> <p>2. 送迎サービスを行っていないが、その分の時間はカンファレンスや個別教材作成、保護者への相談支援、支援技術向上に努めている。</p> <p>3. 時間帯によっては、児童数がすくなく他児と一緒に過ごす機会がない場合もある。</p> <p>4. 集団ではあく個別支援となっているので、集団の中での反化が難しいことがある。</p>	<p>1. 全利用児童への個別支援と統一した技術提供をこなっていくためにも、送迎サービスの実施はおこなっていない。それに伴い、同じ時間帯に在籍する児童数がすくあいこともあり、集団場面での反化が課題となってくる。</p>	<p>1. 時間を工夫して短い時間で協議と討議、決議等をおこなひ、より児童へ質の高い支援が行えるように努めていく。</p>